



SPORTS

平成27年度小林市体育協会スポーツ賞表彰式



謝辞を述べる寺田耐さん

スポーツで優秀な成績を収めた個人・団体を表彰する小林市体育協会スポーツ賞表彰式が、2月23日に文化会館で開かれました。式では、安楽重則会長が「昨年に比べ若干受賞者が減少しているが、その中でも光り輝くものが多くあった。皆さんの活躍によってスポーツのまちこばやしを県内外に強く示した1年であった。」とあいさつ。受賞者を代表して実戦空手道魁の寺田耐選手が「一層努力し競技力の向上はもとより、心身ともに成長できるように精進します。」と謝辞を述べました。(以下受賞者・敬称略)

- 【スポーツ特別賞】
▼小水流朋樹(ウエイトリフ ティング) ▼寺田耐(実戦空手)
【スポーツ優秀指導者賞】
▼寺田博章(実戦空手)
【スポーツ優秀賞団体】
▼小林中男子新体操部 ▼小林中男子バスケットボール部 ▼小林中男子ハンドボール部 ▼三松中女子ハンドボール部 ▼小林秀峰高新高体操部 ▼小林秀峰高校男子ハンドボール部 ▼小林秀峰高女子ソフトボール部 ▼小林高男子バスケットボール部 ▼小林高女子バスケットボール部 ▼小林高女子ハンドボール部 ▼小林高女子バレーボール部 ▼ユウモア(同) ▼キユート(同) ▼ユウモア(同) ▼ロザリオ(同) ▼モア(同) ▼友宝(同) ▼こびあA(同) ▼友宝(同) ▼プレジデント(同) ▼ホープ(同) ▼サザンクロス(同) ▼ジャガーズ(同) ▼スマイル(同) ▼きりしま(ペタンク) ▼銀杏B(同) ▼みやま(同) ▼銀杏C(同) ▼八重尾信夫・八重尾清美ペア(ミニテニス) ▼小林Aチーム(トランポリン)
【スポーツ優秀賞個人・未就学児の部】
▼谷畑朱音(実戦空手) ▼末原颯翔(同) ▼高岩怜音(空手)
【同・小学生の部】
▼柳田琥珀(実戦空手・南小) ▼柳田凜空(同・南小) ▼末原瑠郁(同・小林小) ▼末原咲夢

- ▼小林中男子新体操部 ▼小林中男子バスケットボール部 ▼小林中男子ハンドボール部 ▼三松中女子ハンドボール部 ▼小林秀峰高新高体操部 ▼小林秀峰高校男子ハンドボール部 ▼小林秀峰高女子ソフトボール部 ▼小林高男子バスケットボール部 ▼小林高女子バスケットボール部 ▼小林高女子ハンドボール部 ▼小林高女子バレーボール部 ▼ユウモア(同) ▼キユート(同) ▼ユウモア(同) ▼ロザリオ(同) ▼モア(同) ▼友宝(同) ▼こびあA(同) ▼友宝(同) ▼プレジデント(同) ▼ホープ(同) ▼サザンクロス(同) ▼ジャガーズ(同) ▼スマイル(同) ▼きりしま(ペタンク) ▼銀杏B(同) ▼みやま(同) ▼銀杏C(同) ▼八重尾信夫・八重尾清美ペア(ミニテニス) ▼小林Aチーム(トランポリン)
【同・高校の部】
▼小川結生(トランポリン・小林高) ▼關屋光翼(ウエイトリフ ティング・秀峰高) ▼殿所真衣(同・秀峰高) ▼和田崇(同・秀峰高) ▼前田光葵(同・秀峰高) ▼田中裕也(同・秀峰高) ▼吉村光正(新体操・秀峰高) ▼下田平渚(陸上・小林高) ▼中平侑希(同・小林高) ▼中嶋梨香子(ウエイトリフ ティング・小林高) ▼加藤愛(同・小林高) ▼河野真輝(同・小林高)
【同・中学校の部】
▼種子田麻衣(トランポリン・小林中) ▼寺田匠(実戦空手・小林中) ▼黒木琉月(同・小林中) ▼迫天慶(空手・西小林中) ▼中野辰哉(新体操・小林中) ▼中西隆翔(柔道・小林中) ▼中西太海(同・小林中) ▼種子田翔(同・小林中) ▼加藤勇人(同・小林中)
【同・一般の部】
▼東安美(水泳) ▼林智子(同) ▼黒島賢士(同) ▼鶴木義幸(同) ▼小川利廣(同) ▼川原孝之(空手) ▼齋藤貴憲(陸上) ▼種田昇(同) ▼下津佐善文(同) ▼留野重治(同) ▼永野仁美(同) ▼西村延代(同) ▼老岐知子(トランポリン) ▼稲留利成(同) ▼田代智子(同) ▼西加代子(同) ▼川中幸明(同)

【お詫言と訂正】
広報こばやし3月号に掲載した「宮崎県高等学校駅伝競走大会」で次のとおり誤りがありましたので訂正してお詫言申し上げます。
(誤) 小林高校 2位
石井里佳、黒木裕子、和貞夢乃、石井花奈、芝原美月
(正) 小林高校 2位
有馬光海、下田平渚、壬生えみり、吉蘭葉、横山瑠南



EDUCATION

「心をひとつに」 ～受け継がれる思い～

紙屋小学校

紙屋小学校は、今年創立143年目を迎える歴史と伝統ある学校です。初代南崎兼左衛門校長先生の「紙屋の教育は理想郷づくりにある」との理念のもと、当時の村民総出で整備された「一徳園」は、今も校門を上がった南側に位置し、地域住民や子どもたちの憩いの場になっています。「一徳」とは「心をひとつに」すること。この精神は今なお受け継がれ、「学校や子どもたちのために」という思いの強い地域です。中でも4年生から6年生までの全員で取り組む「城攻め踊り」は、保存会の指導と保護者の支援により毎年11月に高妻神社に奉納しているほか、多くのイベントで披露し好評を得ています。この「城攻め踊り」は、昭和初期から途絶えていましたが、昭和57年、子どもたちの地域学習をきっかけに学校行事で披露され、その後、大人たちがお年寄りから学び直して保存会を発足させたという経緯があります。この郷土芸能の復活もまた、子どもたちの活動を形



高妻神社ほぜまつり

にしよんとする地域の熱い思いが実を結んだものであり、今では保存会、親、子ども、三世代で踊ることのできる広く誇れる本校の伝統となりました。
児童数65名(平成27年度)と小さな学校ですが、ほとんどのPTA活動に全戸の協力があり、また、年間延べ150名以上の地域ボランティアが来校して子どもたちの活動を支援してくださるなど、地域を挙げて子どもたちを守り育てる風土が根付いています。これからも、心をひとつにした協働の学校づくりをみんなで進めていきたいと思ひます。

国際交流『シャネットの徒然なるままに』 WORLD



私のママが見つかりますか？5年生になる前です。男子も入れて48人のクラスでした。

校則

Vol.36
そろそろ新学期が始まりますが、小学校から中学校に上がるみなさん、中学校から高校に上がるみなさんは、どういう気持ちで新学期を迎えているでしょうか。大切な友達はこのからも同じ学校に通うかどうかによって、楽しみだったり、不安だったりするのでしょいか？
ドイツでは普通、5年生以降に学校が変わることはないのですが、私には共感しづらいです。
でも実は、違うことを書くうと思つています。どこから書けばいいか、分からなくて、遠回りしてしまします。では、いきます。日本の中学・高校では、余計な校則が多すぎると思ひます。納得できる校則もあれば、納得できない校則も多いと感じます。髪型はとどの偏見を強めるのではないのでしょうか。日本に生まれていたら、私は違う人に育つたであろう。
茶髪の人は不良！などの偏見を強めるのではないのでしょうか。日本に生まれていたら、私は違う人に育つたであろう。